

[説明資料(提出ファイル)] 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web 提出フォームにて提出する。

個人・グループ名	真名子健人、伊藤有希、今給黎優将、魚住慶明、溝田大起	大学名	九州産業大学 人間科学部子ども教育学科
作品名	光と影の美「新しい子どもの遊び環境の創造」 ～紙飛行機のこーきが見た銀河鉄道の夜～	人数	5名

世界的に高い評価を受けているイタリアのレッジョ・エミリア市の幼児学校では、光の効果を取り入れた幼児教育実践を展開している。日本では光の効果を取り入れた幼児教育実践はまだ少ない。ここでは幼児教育において重要な教材である積み木にLEDライトを配置し、幼児の芸術と科学(アート×サイエンス)分野のセンスを育成できる構成遊びのプロジェクト保育(テーマ保育)の試案を作成することで、保育現場へのこの実践の普及を意図している。

そこで、私たちは「光と影の美」をテーマとした子どもたちの遊び環境の創造に関する研究に取り組み、このプロジェクト保育を計画した。4歳から10歳までの子どもたちが、光源にLEDライト、反射材と遮蔽(しゃへい)材に積み木(ブナの白木、形状7種類)を使って造形しながら、「あかりの良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を体験的に学ぶ、プロジェクト保育の試案「紙飛行機のこーきが見た銀河鉄道の夜」を実践した。その目的は、幼児が光と影の美を感じて、LED(赤・青・黄・緑・紫の5色)を使用することで、光と影の関係性や色の重なりについて自発的に体験しながら気づき学んでいくことである。発想には、短文の題材童話「あかりのありか～こーきとぎんがてつどうのよる～」(きみきみよ著、宮澤賢治原著)を用いた。主人公の紙飛行機のこーきが銀河鉄道の夜を巡り、そこで見た夜景を造形化した。

ぼくは かみひこうきの こーき。  
かぜに のって あかりの ありかを たびしているんだ。  
きょうは ぎんが てつどうの よるを たずねたよ。  
みやさわ けんじ さんが かいだ どうわだね。

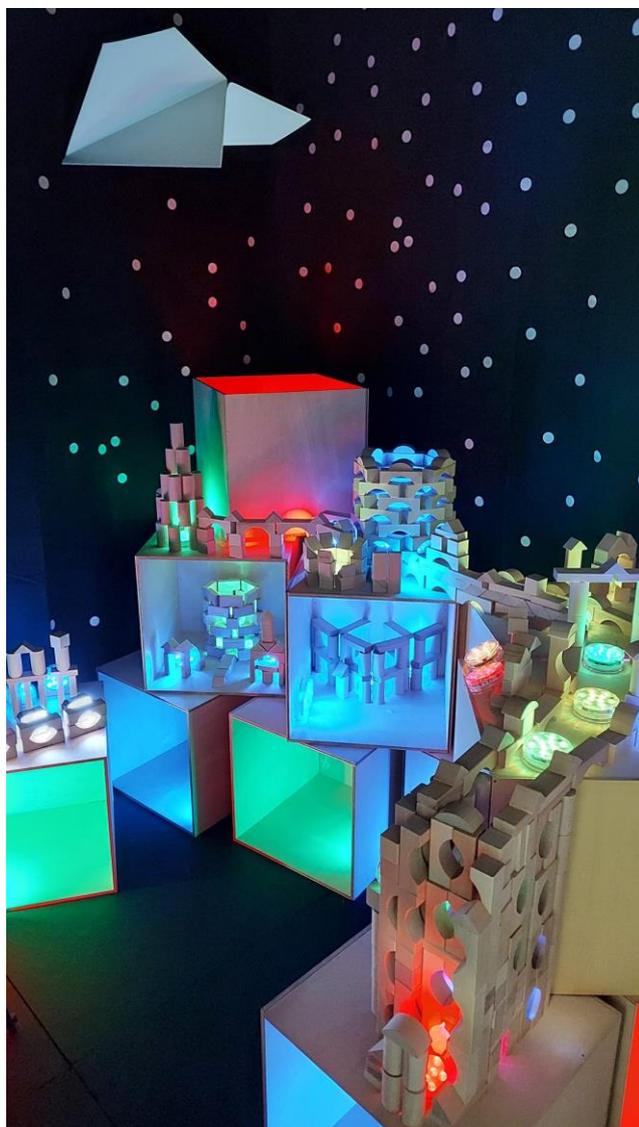
あかりの ありか  
こーきと  
ぎんが てつどうの よる

さく きみきみよ

じよばんには ひとりぼつちで さびしうだね。  
こころも ふあんて いっぱい みたいだ。  
そして、まんでんの ほしぞらを みあげているよ。  
おや、なにか きこえる。  
「ぎんが、すていしょん・・・ぎんが、すていしょん・・・」  
ふしぎな こゝろが、どこから、ともなく、きこえてきたね。  
すると、じよばんの めのまえが  
きゆうに ぱあーっと あかるくなつて  
かがやく、ぎんが てつどうが あらわれた。



資料：題材童話「あかりのありか～こーきとぎんがてつどうのよる」を読み、主人公の紙飛行機のこーきが見た夜景を思い浮かべる。



写真左上：夕焼けをイメージした赤いライトを置き、光を暗転させたり反射させたりする。  
写真左下：積み木とLEDライトを使った制作の様子。銀河ステーションへ続く線路を表現し、山や駅を制作することで、銀河鉄道の夜を表現する。  
写真右：暗転し光の反射を確認する。暗転することで気が付いた部分があれば、手を加え修正する。

参考サイト：<http://isami.biz/?page=page119>